

花一会図書館便り

12・1月号（令和3年12月30日発行）

【TEL&FAX】

0136-57-6085

【MAIL】

hanaichie@voice.ocn.ne.jp

花一会ホームページ



Facebook



Instagram



Twitter

第3回

「郷土探索への道 黒沢温泉編③」

野球少年から送られた一枚のはがき

「郷土探索への道 黒沢温泉編」第3回は、なぜ北海道立文学館が黒沢龍雄という人物に焦点を当てたのかをお伝えしていきます。

きっかけはある絵葉書でした。北海道立文学館には岩内町出身の画家・木田金次郎から黒沢龍雄に送った葉書が所蔵されています。消印は明治41（1908）年6月21日。木田は当時15歳で、岩内尋常高等小学校高等科を卒業して上京し、東京の開成中学に入学して間もないころでした。葉書の文面は「別に用も無かったのだが」と書き始まり、大好きな野球の話、日用品の値段や『中学世界』という雑誌について書かれていました。葉書の裏面には「早大対一高野球大試合記念」の写真が貼り付けてあり、「写真を送ってよろうか」という一文も書き添えてありました。同文学館には札幌市出身の画家・三岸好太郎が黒沢へ宛てた手紙の封筒と葉書も所蔵されており、葉書には油彩と思われる男性二人の絵と短いメッセージや俳句が書かれています。北海道立近代美術館にも木田から黒沢に宛てた一枚の葉書が所蔵されています。こちらの消印は明治43（1910）年2月16日で文面はなく、ただ風景が描かれているのみでした。

また、ニセコ町に縁のある作家・有島武郎の著書『生まれ出づる悩み』に登場する「K」のモデルが黒沢であることは前号でお伝えしたとおりです。

なぜこれらの葉書が重要になったのかというと、明治末期から大正初期の北海道の美術界・文学界に名を連ねた木田・三岸・有島は従来あまり同じ枠で語られることはなかったのですが、所蔵されている葉書などから3名とも黒沢と交流があったことがわかったからです。北海道の美術界・文学界において黒沢龍雄は、どんな立ち位置にいて、どのような影響を彼ら3名に与えたのでしょうか。

それらを解明すべく北海道立文学館は黒沢という人物について調べ始めたのでした。

次回、郷土探索への道

黒沢温泉編④

「ついに現地へ！

黒沢温泉の現在は。」

乞うご期待！！

参考：『資料情報と研究 2020』（北海道文学館 編）
P36～「K」こと黒沢龍雄の位置（苫名直子）

今月のおすすめ本 コーナー



『六人の嘘つきな大学生』

浅倉秋成 著 (KADOKAWA)

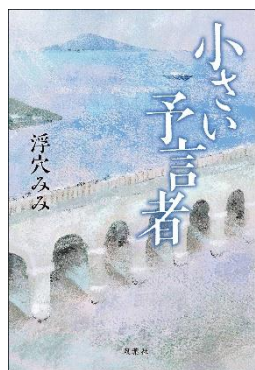
若干名の採用枠に多数の応募者、その中から選ばれた6人。最後のグループディスカッション。次々と変わる展開に驚きの連続。そういうことかと読み進めると、え…？で、読み返すという。謎解きは面白いし、学生たちの必死な就職活動や企業が人を選ぶ事への皮肉も効いている。

『神社語辞典』

本村のり子 著 (誠文堂新光社)



神社を意識するのは年末年始や祭りの時期だけ？実は神社にまつわる言葉は日常のあらゆる場面において私たちのすぐ傍にあるもの。この辞典を開いてみれば“あ、そういえばこれも、これもか”と今までにない新鮮な気づきがあるかも。雑学チックな部分もあって楽しい1冊。



『小さい予言者』

浮穴みみ 著 (双葉社)

北海道開拓期を背景に紡がれる5つの物語。「ウタ・ヌプリ」は明治、移住先の農場地を飛び出し砂金堀りに取り憑かれた少年の話。技術を身に付け、好いた女もあった。が、一人の男に誘われたことをきっかけに彼の道はずれて行く…。『鳳凰の船』『楡の墓』に続く3部作の完結編。



『いちばんわかりやすい確定申告の書き方 令和4年3月15日発行分』

土屋裕昭、樋川智子 監修

(ダイヤモンド社)

そろそろ今年もこの季節が近づいて来たか…と準備を進めている方もいるのでは？花一会にも確定申告関連の本が揃っています。こちらは今年の最新版。ギリギリ駆け込み！にならぬよう、本を片手にご準備を。(※1週間貸出です)

正月太りよ、サヨウナラ

いま流行りの穀物はコレ

『オートミールヘルシー&ダイエットレシピ』
牛尾理恵(主婦の友社)

『1日1杯飲むだけダイエット やせる出汁』
工藤孝文(アスコム)

『やせる出汁』
工藤孝文

『本当はずっとヤセたくて。』
細川貂々(幻冬舎)

『本当はずっとヤセたくて。自分のためにできること』
細川貂々(幻冬舎)

健やかに、美しく。初めての方にも

『新しいピラティスの教科書』
石部美樹(池田書店)

『フィットネスジム 徹底活用マニュアル』
(成美堂出版)

『これを読んで 体育館へ！』

『体幹リセットダイエット 究極の部分やせ』
佐久間健一(サンマーク出版)

『体幹リセットダイエット 究極の部分やせ』
佐久間健一(サンマーク出版)